

一宮町長  
馬淵 昌也

一宮町の皆さま、あけましておめでとうございます。冒頭の新年のご挨拶でも申し上げたとおり、新型コロナウイルスの勢いは、日本では大分沈静化しています。一宮町では、9月以来新規の陽性者の報告はないうまに、12月下旬を迎えました

さて、こうした情勢の中で、私は各種会合への出席を再開することにしました。すでに国や県も、各種会合について大幅に規制を緩和しています。町でも、役場職員の会合への参加も、感染防止に十分留意した上で、OKといたしました。私自身も、それにつれて、各種会合への参加を再開することにしたものです。

この2年間、コロナにより、すべての催しや会合がなくなつて、町の皆さまから直接ご意見・ご要望を頂く機会も激減してしまいました。これは、町長として、正しく町政を遂行する上で大変残念な事態で、一日でも早く皆さまと再度親しくお話をする機会を取り戻したいと思つておりました。みずから町の皆さまのお宅に一軒一軒伺い、ご意見を頂く努力もしておりますが、なかなかほかはどうないのが実情です。その中で、ここまで感染状況が

好転したとなれば、各種の会合に出席させて頂き、町の皆さまとの意見交換を再開したいと考えたものです。

そういう見地から、先般、農業委員会の会合に、出席させていただきました。久しぶりの会合参加でしたが、貴重なご意見をたくさん頂戴し、やはり直接お目にかかつてお話しするのは、実りが多いことを痛感いたしました。特に感銘を受けたのは、ある委員の方が、オリンピック後の一宮町をどう先へ進めてゆくか、農業、商工業、飲食業、建設業など、さまざまな事業の当事者が集まつて共に議論し、アイデアを出し合いたいね、と仰つておられたことです。まさしく、これからの町に必要なことだと、深く頷かせて頂きました。

そういうことで、会合はやはり意味がある、ということを確認いたしました。私としては、この穏やかな間になるべく皆さまとお目にかかりたいと思つております。もちろんいま、オミクロン株の脅威が高まりつつあるなかで、問もなく再度自粛に転せざるを得なくなるかもしれません。それまでの間、できるだけみなさまと一緒にさせて頂ければ、と思つ次第です。